

# 小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	26	施策名	都市基盤施設の維持・強化		
小施策コード	26-5	小施策名	安定給水の確保		
小施策 主管課等コード	902500	小施策 主管課等名	経営企画課		
評価責任者名	伊藤 亨		内線番号	6230	
評価シート作成者名	小笠原 美千代		内線番号	6231	

## Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
市道改良率*	↑	%	73.9	74.4	74.6	74.8	75.7
まちづくり評価アンケート調査「公園や街路樹などの街の中の緑が多いと思う」と答えた市民の割合	↑	%	74.2	74.7	78.1	80.0	80.0
水道管路の耐震化率	↑	%	23.3	24.9	25.5	29.6	34.6
汚水処理人口普及率（処理区域内人口/行政区域内人口）	↑	%	95.0	95.2	95.3	96.0	97.8
面的整備による生活環境整備率（整備済路線延長/整備計画路線延長）	↑	%	29.0	30.5	31.7	63.0	97.0

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

\* 28年度に新しく追加した指標。

## Step 2 小施策の全体像

### 小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
配水される水	安全でおいしい水が安定供給される。
水道施設	安全でおいしい水が安定供給される。
現状と課題	人口減少時代の到来などにより、水需要も長期的に減少することなどが予測されるなど、事業環境は大きく変化している。一方、既存の水道施設は老朽化が進行していることから、その計画的な更新・改築を進めるとともに、災害に強い水道施設を構築していく必要がある。このような現状から、水道施設の再構築はダウンサイジングも視野に入れた水道システム自体の見直しの必要性が高まっている。
取組の方向性	災害時のリスクへの対応、環境対策への貢献及び中長期的視点に立った事業運営など、経営環境の変化に即した各種施策を実施することで、市民から信頼され続ける水道事業を推進し、安全でおいしい水の持続的安定供給を目指す。

## Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
有効率	↑	%	94.0	94.8	95.7	94.5	95.0
まちづくり評価アンケート調査「盛岡の水道水を直接飲用している」と答えた市民の割合（直接飲用率）	↑	%	89.0	89.5	89.0	90.7	92.5
鉛製給水管率（鉛製給水管使用件数／給水栓数）	↓	%	28.9	27.0	26.3	25.1	21.3

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

## Step 4 市民ニーズの把握

- ・ 盛岡市水道事業経営審議会では、水道普及率の向上、水道施設の耐震化、有収率の向上などが期待されており、着実に取り組む必要がある。
- ・ 水道は市民の生活において欠くことのできないライフラインであることから、水道施設の維持管理を計画的に行い、安定給水を図る。
- ・ 助成等の制度に対して、広報紙・HPの掲載内容への問合せのほか、指定給水装置工事事業者を通じて所有者等からの問合せにより、ニーズ等を把握している。
- ・ 将来にわたり安全でおいしい水を供給するため、水源の上流域での森林を守る取組みが求められている。

## Step 5 役割分担分析

### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担 比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	水道は市民生活の欠くことのできないライフラインであり、将来にわたり安全な水質、強靱な施設、持続できる健全な事業運営を行うこと。	80
	国・県・ 他自治体	水道行政に係る適切な指導・監督を行うとともに、水道施設整備に係る国庫補助金（交付金）の確保及び適切な交付を行うこと。また、広域連携をはじめとする水道事業者の基盤強化に関し、積極的な支援を行うこと。	10
	市民・ NPO	水道料金の負担及び水道法に基づき給水装置の維持管理を行うこと。	5
	企業・ その他	水道施設の各種設備の技術革新とコスト縮減、および業務委託での技術力向上と人材育成を行うこと。	5

### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

水道事業は、水道法により基本的に市町村が運営することとされており、各主体と連携を図る必要はあるものの、将来にわたり安定して水道事業を行う責任を市が負っていると考えられるため。

## Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

### 1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ アセットマネジメントを踏まえて投資の平準化を行い、効率的な施設整備を行う。水道管については、更新による効果が高い高級铸铁管、硬質ポリ塩化ビニル管を優先的に更新することで、耐震性の向上と有効率向上による経営基盤強化を図り、浄配水場施設については、日常点検による不具合の早期発見や定期点検による計画的維持修繕をおこない、効率的な施設整備を実施する。
- ・ 修繕・工事受注業者との連携強化を図り、発見した漏水等の異常個所の速やかな修繕施工に今後も務めていく。
- ・ 貯水槽設置者への積極的な啓発を実施しながら調査を実施する。
- ・ 盛岡市鉛製給水管布設替え工事費補助金については、研修会等を活用して指定給水装置工事事業者への周知を行う。

### 2 1の改革改善案の実施状況

(A：着手済, B：平成29年度に着手(予定含む), C：未着手または見送り)

改革改善案	具体的な取組(予定)内容	状況
アセットマネジメントを踏まえて、投資の平準化を行いながら、更新による効果が高い高級铸铁管、硬質ポリ塩化ビニル管を優先的に更新することで、耐震性の向上と有効率向上による経営基盤強化を図る。	○平成28年度 高級铸铁管更新 2,695.2m 270,273千円 (繰越し工事の前払い金分を含む決算額は468,083千円) ○平成28年度繰越し工事(繰越予算) 高級铸铁管更新 2,041m 119,796千円	A
経年管の更新事業では、高級铸铁管の布設替に加え、硬質ポリ塩化ビニル管の更新にも取組み、徐々に効果が表れてきていることから、継続的に更新事業を推進していく。	硬質ポリ塩化ビニル管 3,248m 198,971千円 (事業費は前払い金を除く) ○平成29年度(当初予算) 高級铸铁管更新 6,000m 500,000千円 硬質ポリ塩化ビニル管 3,120m 260,000千円	A
漏水等の異常個所の迅速な修繕	平成29年度配・給水管等修繕工事業務委託を締結し、受託業者との連携により、漏水等の異常個所について速やかに修繕工事を実施している。	A
貯水槽設置者への啓発	業務委託による点検調査を実施し、指導助言を行うとともにパンフレットを配布し啓発を行った。	A
鉛製給水管布設替え工事費補助金の周知	指定給水装置工事事業者を対象とした研修会で補助制度活用の周知を行った。	A

### 3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

## Step 7 成果・問題点の把握

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 上下水道局における成果指標については以下のとおりである。

項目	H27	H28	H27→H28
有収率 (%)	93.2	94.0	+0.8
有効率 (%)	94.8	95.7	+0.9
基幹管路の耐震適合率 (%)	68.6	68.8	+0.2
管路の耐震管率 (%)	24.9	25.5	+0.6
無効率 (%)	5.2	4.3	-0.9
配・給水管修繕件数(漏水対策事業分含む)(件)	365	270	-95

- ・ 水道記念館は、耐震化・活用整備工事が完了し、平成29年6月に一般公開を再開した。
- ・ 鉛製給水管が減少した。
- ・ 水道法の水質基準に適合するように浄水し、常に需要に応じた水量を供給した。
- ・ 浄配水場施設の適切な維持修繕により、不具合が発生する確率が減少した。
- ・ 水源涵養林を綱取ダム上流の中津川水系の約7%取得できた。

#### (2) 成果をあげた要因

- ・ 計画的に経年管更新事業、区画整理関連事業をはじめとした配水管整備を行った。
- ・ 配水監視システム異常警報や現地パトロール、市民からの通報等で発見された異常箇所について、迅速かつ確かな対応により早期の修繕施工を実施し、安定給水に努めた。
- ・ 水道記念館については、再開にあたり広報活動に努め、市民の周知を図った。
- ・ 水道G L Pの認定を取得・更新し、水質検査結果の精度と信頼性を確保している。
- ・ 鉛製給水管の布設替え工事に対して、工事費用の6割までの補助金を交付した。
- ・ 浄配水場施設を適正に運転管理、点検整備し、効率的な施設更新を図った。

#### (3) さらに成果向上に向けた課題(課題がある場合に記載)

- ・ アセットマネジメント等を活用し、緊急性や費用対効果を考慮しながら水道施設の再構築を行い、変化する時代に対応できる持続可能な水道システムの実現を図る。
- ・ 漏水発生頻度の高い経年管の更新と漏水防止対策が非常に重要であることから、効率的な経年管の更新事業の推進および配水調整ブロック整備や配水監視システムでのリアルタイムな流量・水圧情報の把握に努め、減・断水等の二次的事故を未然に防止する。

### 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策における現状の問題点

- ・ 人口減少による給水収益の減少。
- ・ 水道施設の老朽化に対応した更新事業量や維持管理費用(修繕費用等)の増加。
- ・ 各種工事における入札不調、人件費や資材単価の高騰。
- ・ 貯水槽水道の管理について、点検調査の実施及び立会拒否による調査不能箇所が発生。
- ・ 盛岡市鉛製給水管布設替え工事補助金制度利用者の減少。
- ・ 浄配水場施設について、現状を維持した規模での更新は、施設利用率の低下など、将来的な事業効率を悪化させることとなるため、水道の施設規模を縮小することが必要。
- ・ 良好な水源涵養機能を持つ森林が、徐々に減少する方向にある。

## (2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 人口減少，節水機器の普及，節水意識の高まり等。
- ・ 高度経済成長期に整備された水道施設が法定耐用年数を迎つつあること。
- ・ 工事業者の技術者不足，震災後の沿岸部の工事増加等による資材高騰等。
- ・ 老朽化に伴う漏水等により，修繕箇所数が増加傾向にあること。
- ・ 貯水槽設置者の責務はあくまで努力義務であること。
- ・ 盛岡市鉛製給水管布設替え工事補助金制度の周知が不足。
- ・ 林業の低迷により山村人口流出と高齢化が進み，人工林の維持管理が疎かになっている。

## (3) 分析した原因の解決に向けた課題

- ・ 中長期的な財政計画の策定を行い経営基盤の強化を図り，経年管更新事業や浄配水場施設整備事業など各種事業について，費用対効果を勘案しながら効率的な施設整備を進める。
- ・ 貯水槽設置者への啓発。
- ・ 盛岡市鉛製給水管布設替え工事補助制度について，効果的な周知方法の検討を行う。
- ・ 経営されない民有林については，受け入れ（所有権や地上権の移転など）の当面の対策。

## Step 8 小施策と構成事業の関係性

### 1 小施策との結び付きが弱い，もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

水道記念館管理業務事業

### 2 1で記載した事業についてその理由

小施策で目指す成果を得られるような見学者数が望めないため。

### 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

浄水場等運転・管理業務事業に統廃合する。

## Step 9 Step 7, 8を踏まえた改革改善案

- ・ 第三次水道事業基本計画に基づいた継続的な施設整備を実施するとともに，毎年度計画をローリングすることで時代のニーズに対応した事業を推進する。
- ・ 経年管の更新事業では，高級铸铁管の布設替に加え，硬質ポリ塩化ビニル管の更新にも取り組み，徐々に効果が表れてきていることから，継続的に更新事業の推進していく。
- ・ 修繕工事受託業者との連携を強化し，漏水等の異常個所の迅速な修繕施工に努める。
- ・ 貯水槽設置者への継続的な啓発を実施し，点検調査を実施する。
- ・ 研修会等を活用して，鉛製給水管布設替え工事補助金についての周知を継続して行う。
- ・ 浄配水場施設整備については，日常点検による不具合の早期発見や定期点検による計画的維持修繕と，アセットマネジメントを活用した効率的な施設整備を行う。
- ・ 水需要減少下における過渡期を考慮したダウンサイジングを踏まえた施設の再構築。
- ・ 市の水源の上流域で，水源涵養機能が大きい森林について，受け入れを実施する。